

ゆうあい通信

2017年7月(第5号)



【理念】

人の心を大切にし、
皆様に安らぎと感動を提供することが、
私たちの使命です。

【基本方針】

- ・利用者の尊厳を守ります。
- ・安全を最優先します。
- ・質の高い介護サービスを提供します。

経営体制が変わりました。



本格的な社会福祉制度改革が4月より実行され、当法人も行政の指導の下、様々な改革を行うことになりました。その中の1つに施設における理事会の位置づけが変更となり、新しい体制を構築することとなりました。

去る6月16日、定時評議員会及び理事会が開催され、理事長兼施設長に寺境博子、また、業務執行理事として入江京子が選任されました。

社会福祉施設において女性の施設長は珍しくはありません。女性特有の繊細な感性を活かした施設運営は、入居者に、これまで以上の快適な生活空間と安全を提供することができると確信しております。また、ご家族様との繋がりを大切にし、一緒により良い施設を目指してまいります。

今まで以上のご協力、よろしくお願い申し上げます。

ゆうあいの里大同

地域の皆様と・・・

「地域の皆様に施設の一部を開放し地域と一体化した関わりを持つこと」は、この施設が開設された時からの考えである。

これまで施設の一部を開放し、地域長寿会に会議スペースを提供したり、老人会を通じて介護保険制度の説明や特養施設の特徴の説明を行い、地域との交流を深めて参りました。

また、近隣の幼稚園・小学校・中学校・大学との「相互ふれあい活動」も充実し、結果、当施設の入居者に多くの笑顔をもたらしてくれております。

最近の地域交流では、介護学生の実習受入はもと

より、養護学校高校生の実習受入、大学歯学部の実習受入も行っております。受入することにより、当職員の視野が拡大し、人として大きく成長できる機会となっております。

一方、地域の要請の一環として、南区社協主催の「高齢者はつらつ長寿推進事業(はつらつクラブ)」の受入や「中学生学習支援事業」にも参加しております。

当施設は、「皆様に身近に感じて頂ける施設」を目指しております。施設に対し要望等がありましたら、是非、ご相談してください。

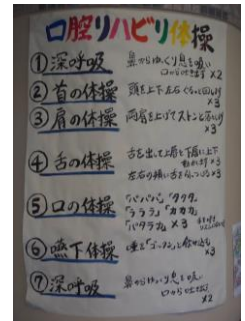


肺炎予防の対策として(お口の体操)

当施設では誤嚥による肺炎防止対策の一環として、食事前に行っているお口の体操を4月よりリニューアルしました。以前はパタラカ体操など声を出して頂く体操のみ行っていましたが、このたび上半身を動かす運動を加えた口腔リハビリ体操を考え、各階で毎日食事前に行っています。

以前より行っていたパタラカ体操に加え、首や肩の運動、舌の運動など上半身すべてを使う為、始めは利用者様も戸惑いがある様子でしたが、今では楽しんで行って頂いております。

施設での生活で、食事を楽しみにされている利用者様は多い。いつまでも自分で食べる事が出来る様に私たち職員は、口腔機能の維持向上を目指し、今後も口腔リハビリ体操を継続します。そして、誤嚥による肺炎を防ぎます。



胃瘻について

食べ物を口に入れて咀嚼して飲み込むという人間が本来持っている力が、老化等で低下する事があります。

そのような状態になった場合、医師から「胃瘻」を勧められることが、近頃、増えてきたように思います。

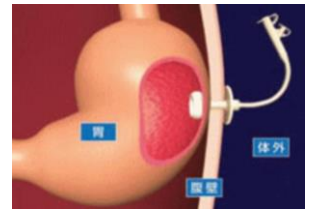
「胃瘻」とは、腹壁を切開した部分に管を通し栄養を体内に注入するという方法です。栄養を摂ることはできますが、日々の生活の中で一番の楽しみである「食べる、味わう」事が、出来なくなります。当施設では、「可能な限り、たとえ一口でも自分の口(舌)で、味わって食べて頂きたい。」と考えております。

支援した結果、「胃瘻」の状態に入所された方が、おやつゼリーから、お粥、ムース状のおかず等も食べられるようになったケースが実際にあります。また、入院中に医師から「胃瘻」を勧められた方でも、退院し施設に戻られた事で、徐々に食べられる様になり、暫くすると入院前と同じように食事が出るようになった方も見えます。

入院中に医師から「胃瘻」の話が出た場合、すぐに

答えを出さず、一度施設へ戻り経過を見るという選択肢もある為、遠慮なく相談して頂ければと思っています。

高齢者で度々問題になる「誤嚥性肺炎」は、食事をしていても、「胃瘻」の方でも起こります。胃瘻を作るメリット、デメリットを知り、本人の意思やご家族の思いなどを考えあわせ、ご本人にとって最良の結果になるように家族間で話し合っておく事が大切です。



初志貫徹

昨年に引き続き、西陵高校の生徒さん3名が、介護施設の見学と新聞作成の取材に来ました(6/22)。

世の中、介護職員が不足している今、介護現場の状況を知ってもらう意味でも、取材協力は大事であると考えました。

生徒さんからは、「介護の仕事って、何をされるのですか?」「なぜ、介護の仕事を選んだのですか?」「お年寄りのお世話は大変ですか?」「やりがいを感じる時は、どんなときですか?」など様々な質問がありました。

対応した私は、初めて入職した時の記憶を思い起こさせられました。

仕事を始めたきっかけや介護の魅力について話をしていくうちに、改めて私は、「介護の仕事が好きなのだ。」と気付きました。これからも入居者との時間を大切に、明るく、楽しく、笑顔の多い時間を持ちたいと思います。

取材を通じ、「初志を忘れない。」という思いを生徒さんから頂きました。



食中毒対策・水分補給、夏バテ防止について

先日、施設内講習として外部講師をお招きして食中毒講習をして頂きました。毎年流行するノロウイルスや最近話題となったはちみつに含まれるボツリヌス菌など身近な食中毒やその予防方法について勉強しました。食中毒は手洗いをしっかり行う事や、十分な加熱調理をするなど基本的なことで予防できます。当施設でも一層気を付けていきたいと思えます。

最近日増しに暑くなってきました。喉が乾いてないと思っても水分を摂らないと気付かないうちに脱水なったりして、それが夏バテにも繋がり食欲がなくなってしまいます。実は食べ物に含まれる水分も水

分補給として重要な役割を担っています。こまめに飲み物を飲み、毎日のお食事をしっかり食べる事によってこれからの暑い夏を乗り切りましょう。

≪ 自宅で経口補水液を作る ≫

- 湯冷まし・・・1ℓ
 - 砂糖・・・大匙4杯と半分
 - 塩・・・小さじ半分
- 熱中症対策に有効です。



(4~6月の)行事風景

今年の桜は、満開が少し遅れましたが、花の散るの遅く、長く花を楽しむことができました。入所者全員に花見をしてもらおうと、職員全員で頑張りました。

大学の桜はひらひらと下を流れる小川に散り、水面はピンクの絨毯になっておりました。

土手にはタンポポや土筆があり、春の季節を実感して頂けたと思います。「来年も、桜見物ができるといいな」という入所者の言葉は、印象的でした。笑顔の写真をいくつか紹介します。



5月の遠足では、聚楽園の大仏様と東山動物園に行きました。ご家族様の協力もあり、楽しい遠足となりました。動物園では象や猿などを観て、昔のことを懐かしんでいたようです。



七夕の時期を迎え、笹に飾る短冊を作っています。入所者の思いを短冊に込めました。



「ゆうあい祭り」のご案内

今年も「ゆうあい祭り」を開催します。昨年度より秋に開催することになり、2回目です。従来の夏の祭りとは異なり、秋らしい祭りの趣向を考えております。ご期待ください。

開催日:10月1日(日曜日) 13:00~16:30
催し物:屋台、盆踊り、職員による歌・ダンスなど・・・

毎年、ボランティアを募集しております。ご家族並びに近隣の皆様、ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

参加申し込みは、

ゆうあいの里大同 藤瀬まで

TEL052-612-3030(8:30-17:00)



去年のお祭り風景



7～9月の行事等のご案内

この時期はとにかく暑いです。入居者が若かりし頃は、縁台で夕涼み、将棋を指したり、話に夢中になったりの風景が想像されます。

施設の中はクーラーが効き、快適な生活ができますが、四季の折々がはっきりしている日本では夏は夏らしくの生活も大事です。

今年も例年と同様、暑気払いの行事を計画し、入所者の皆さんに楽しんでもらおうと思います。

7月 名古屋港花火鑑賞
七夕

8月 施設での花火大会
スイカ割り
柴田商店街祭り
歌謡ショーイベント

9月 秋の遠足

この写真は、昨年度の風景です。



環境改善

【季節イメージ・デザイン】

これまで職員により、入所者に施設内での四季を感じて頂くための様々な飾りつけを企画してきました。

この度、大同大学情報学部情報デザイン科の学生達より、施設内展示ポスターの提案があり、6月中旬からダイルームや廊下等にその作品が飾られることになりました。

「皆様に、若者のパワーと季節の移ろいを感じて頂ければ幸いです。」とのことでした。

ここにいくつかの作品を紹介します。



ボランティア

【高木ご夫妻に感謝します】玄関入って左側、面談室の飾り棚にいつも生け花があることにお気付きの方は多いと思います。この生け花はこの施設が開設されて以来、高木さんのご厚意により飾られてまいりました。入居者の皆様はもとより、施設を訪問される多くの方に潤いのある環境を提供して頂きました。7月よりこれを続けることが難しくなりました。永い間、当施設に貢献して下さった高木さんご夫婦に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



職員コラム

ゆうあい通信から頼まれ、4コマ漫画を書いてみました。施設内のイメージを描くとなると、素人ではなかなか難しいと感じましたが、とりあえずやってみました。

私は絵をかくことが大好きです。学生の頃は美術部に所属していました。

ユーモアあふれる漫画は、気持ちをなごやかにしてくれます。

入所者の皆様と職員が、心が通じあえる場面を漫画にしましたが、いかがですか？

チャンスがあったら、次も投稿したいと思います。
Y. S



編集後記

編集責任者であった事務員が5月末で退職しました。長い間、社内報の仕事に携わっていたので後任者としては、大変な思いで7月号を編集しました。

かつて毎月発行していた「ふれあいホットライン」から季刊誌に変えたのは、昨年7月号からです。今回は第5号ですので、2サイクル目に入ります。

施設の状況や方針を簡潔に伝える努力をしていますが、うまく伝わっているでしょうか。これからも記事の改善に努めていきたいと思っております。新しい編集長より

コラムごとに載っている花は施設に咲いている花々です。苦瓜、胡瓜も玄関先で作っています。



ゆうあい通信 2017年7月(第5号)

編集・発行 社会福祉法人 大同福祉会 特別養護老人ホームゆうあいの里大同

〒457-8512 名古屋市南区白水町20番地 TEL052-612-3030(代表) FAX052-612-3076